



# サプライチェーンにおける 社会・環境配慮

サプライチェーン全体でのCSRが求められる中、TDKグループは川中企業として、サプライチェーンにかかる法制度や国際的な業界規範などに大きく影響を受ける事業環境にあることから、「サプライチェーンにおける社会・環境配慮」を重要な活動項目の一つに定めています。

サプライヤーとして

CSR 監査受審件数  
(2013年度～  
2014年度累計)

72 件

CSR監査の受審は、CSR活動のレベルアップの機会ととらえています。一方、サプライチェーン全体でCSR活動を強化する動きの中で、各社独自のCSR監査の重複が対応の混乱・疲弊につながる事が懸念されることから、CSR監査受審件数を重要な側面と考えています。今後も、受審件数を把握し、バリューチェーン全体でより効果的なCSR監査の実施方法を追求してまいります。

CSR 内部監査員  
養成研修  
受講者数  
(2014年度累計)

121 名

お客様からのCSR監査における要求事項を体系的に理解し、かつ、自社のCSR活動を評価するための基礎を身につけることは、今後のCSR活動のレベルアップを図る上で重要と考え、CSR内部監査員養成研修受講者数を重要な側面と考えています。

紛争鉱物対応  
(回答件数)

2,489 件

紛争鉱物調査のお客様への回答は、紛争鉱物という重要な社会課題に対して、TDKが真摯に取り組むべきことだと認識しています。一方、調査への回答件数を把握することは、対応の負荷を判断する上で重要な側面と考えています。

バイヤーとして

お取引先様  
CSR チェックシート  
(改善指導社数)

13 社

お取引先様とともに企業価値を高め合うCSR調達を実現するためには、お取引先様自身の気づきと自己改善が重要と考え、お取引先様CSRチェックシートの改善指導社数を重要な側面と考えています。

紛争鉱物対応  
(調査票回収率)

99 %

紛争鉱物についての調査票をお取引先様に依頼し回収することは、紛争鉱物という重要な社会課題への対応として不可欠な取り組みです。調査票回収率は、お取引先様の紛争鉱物問題への認識を確認する上で、重要な側面と考えています。





## ◎サプライヤーとしての取り組み

お客様が製品を調達するサプライヤーであるTDKは、自社拠点での社会・環境配慮に努めています。セルフチェックや監査などを通して、企業価値の向上につながるCSRを推進します。

### TDKの生産拠点での取り組み

TDKでは、CSR活動の課題把握とお客様への迅速な回答を目的に、EICCをベースとした「TDK CSRセルフチェックシート」を作成し、主要な生産拠点で自己診断を毎年実施しています。また、近年増加しているお客様による「CSR監査」の機会を、CSR活動レベル向上の機会と捉え対応するとともに、リスクの高い地域・生産拠点においては、お客様による「CSR監査」を含め、2年に1回、第三者機関による内部監査を行っています。こうした「CSR監査」が求める内容を体系的に理解し、生産拠点でのCSR活動のレベルアップを目的とした「CSR内部監査員養成研修」を、2013年より毎年実施しています。

### CSR監査への対応

2013年度から2014年度にかけて、5拠点でCSR内部監査を実施。お客様からのCSR監査と合わせ、延べ72拠点にてCSR監査を受審しました。このうち、労務リスクの高い中国内にある拠点については、すべての拠点で監査を受審しました。指摘事項については、各拠点で改善するとともに、CSRグループが本社関連機能に情報を共有し、注意喚起や施策に反映させています。

また、CSR内部監査員養成研修を2013年度に引き続き2014年度も日本、中国でそれぞれ実施。特に監査機会の多い中国では、ケーススタディに重点を置き、前年よりレベルを上げた質の高いトレーニングを実施しました。



### Voice 高いレベルのCSRでお客様の期待に応えます

TDK廈門でCSR推進を担当しています。サプライチェーン全体でCSRを推進するため、お客様から求められるCSR基準に対応していくことが、サプライヤーとしての責任だと考えています。TDK廈門では、2013年にCSR推進室が発足して以来、5回のCSR監査を受審してきました。回を重ねるごとにお客様から要求される基準は高まり、審査が厳しくなっているため、私たちにとって毎日が挑戦ですが、関係者が監査の目的を共有し、コミュニケーションを密に取りながら、現状把握など準備を進めることで、すべての監査で合格点をいただくことができます。

昨今のCSR監査の傾向として、担当者のタスクや評価方法、監査結果の共有など、CSRマネジメントシステムの成熟度を問われることが多くあるため、要領の改訂も含め適切に対応していきます。今後も、より体系的かつ効果的な仕組みの構築など、たゆまぬ改善努力を続けていきたいと考えています。

TDK Xiamen Co., Ltd.  
CSR推進室  
陈淑霞  
(Shelly Chen)



## ◎バイヤーとしての取り組み

原材料を調達するバイヤーとして、TDKはコミュニケーションを大切にCSR調達を行い、強い信頼関係を築きます。この取り組みが、お取引先様とTDK、両社の企業価値を高めると考えています。

### CSR調達の推進

TDK購買方針にもある「CSR調達」は、当社にとって重要な課題の一つです。当社は部品メーカーであるため、サプライヤーとしての立場で自社のCSRを推進する一方、当社のお取引先様に対してもCSRを求めていく必要があります。

そのため、お取引先様にはCSRチェックシートへの回答を毎年お願いするとともに、回答結果に問題がある場合には、個別に改善を依頼しています。

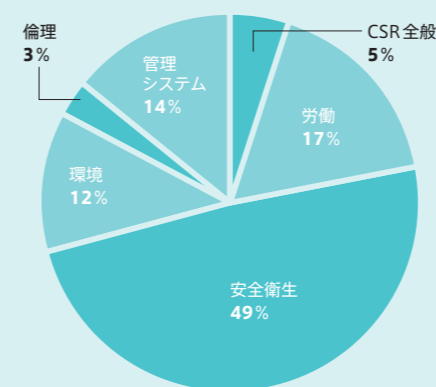
また、2012年度からは、実態を客観的に把握する目的でCSR監査を実施。お客様への納入製品に関わる重要度、依存度などを勘案して、お取引先様を選定して実施しています。

### CSR監査結果の概要(TDK廈門)

TDK廈門では、2014年に9社のCSR監査を実施し、計118件の指摘事項がありました。

このうち、「安全衛生」に関わる指摘事項が、全体の49%を占めており、中でも有害物質を扱う業務に従事する従業員への保護(特殊健康診断や保護具の使用など)に対する配慮の不足や、避難経路の確保がされていない、危険化学品の不適切な保管管理などが、複数発見されています。

#### CSR監査での指摘事項の内訳



### Voice お取引先様に寄り添い共に経営課題に取り組みます

お取引先様へのCSR監査を担当しています。CSR監査の内容は広い分野にわたっており、法律や専門知識が求められます。実際の監査でも、リスクの把握や問題点の判定などに戸惑うことが多くあります。そのため、私たちのような監査員は普段からトレーニングに参加したり、法律講座を受講したり、専門家に指導を賜ったりして、自分自身のレベルを向上させる必要があります。また、監査をする際には、監査で発見したリスクの大小とお取引先様の経営状況を考慮した上で、問題点、改善策を指摘することが大切だと考えています。これらのことで、お取引先様からの質問に誠意を持って正確に答えることができますし、それがお取引先様のCSRの重要性への理解や信頼関係の構築につながり、最終的には両社の企業価値を高め合うことにつながるのです。

今後も、CSRの知識をこつこつと身に付け、経験を積んで、CSR推進に尽力していきたいと思っています。

TDK Xiamen Co., Ltd.  
経営企画本部 資材部  
顔雅菲  
(YaFei Yan)



## サプライチェーンにおけるCSR推進

サプライチェーン全体でCSRを推進するために、TDKに期待すること、評価できる点は何か——株式会社エナジェティック グリーンの和田征樹氏をお迎えし、意見交換会を実施しました。

株式会社 エナジェティック グリーン  
共同代表取締役

和田 征樹 氏

2001年からスポーツ用品やアパレル関連の企業に在籍し、サプライチェーンにおける人権課題を中心に活動を行ってきた。2013年6月より、公益財団法人にて外国人技能実習制度に関わり、2014年8月より、株式会社エナジェティック グリーン、共同代表に就任し、CSRに関する研究、コンサルティングを行っている。



実施日：2015年5月11日

### ■和田氏の主な意見・提言

#### サプライヤーとしての取り組みについて

顧客からの監査要求が高まり続ける中、それに対応するTDK各拠点の負担は今後も増していくことが見込まれます。職場の人権・労働について、業界を問わず問題となり得るのは強制労働・児童労働・長時間労働など特定の項目です。これらは先んじて自社で調査結果を取りまとめ、問い合わせがあればいつでも提出できるよう備えておくことも大切でしょう。

現在、各拠点でこれまで受けた外部監査・内部監査の内容、結果、対策などの履歴を一元化し公開する試みを進められているとのこと、これは素晴らしい取り組みです。今後に向けた

リスク回避策として有効な上、顧客の要請に応え続けるためにも意義が大きく、ぜひ積極的に推進していただきたいと願います。

また、海外拠点の設立に備え、確実に実行すべき項目をチェックリスト化し、品質や設備、コストなどとともにCSR観点を組み込んだ、フィージビリティスタディをしている点は大変優れています。「現地」「現場」「現物」「現人」という4現主義に基づく展開の重要性をよく理解された行動をお願いしたいと思います。

#### バイヤーとしての取り組みについて

数多くある取引先に対し、SAQ（自己調査票）や監査、改善指導を一律に行うのは難しく、優先順位を意識した取り組みが求められます。取引先の依存度などを踏まえ、TDKとしてのガイドラインを明確にしていくことが欠かせません。

取引先へのCSR監査を行い、監査する人材育成にも注力する今、その先に何を指すかが問われる段階を迎えています。

取引先への改善指導では、共に成長していくという視点から、指導を通じて相手企業の組織強化をサポートする「キャパシティ・ビルディング」の考え方が一層重要になります。情報開示の一環として、どのような項目をいかに指導したか、今後レポートにも盛り込んでいけるとよいように思います。

#### 川中企業として業界で求められる役割

TDKは川中企業であるからこそ、サプライヤーとバイヤーの二側面からサプライチェーンを見渡すことができます。サプライチェーンで今何が重視されてきているかという傾向の把握は常に欠かせません。NPO・NGOとも連携し、人権課題の最新動向やCSR監査について指導を求めるといったことも一考されるとよいでしょう。

これまでSAQ策定などで川中企業が強い存在感を示してこられなかったのは残念な点であり、グローバル化が進む中、川中企業としての考えをしっかりと表明していくことは不可避となっています。業界連携や業界横断を強化し、国際社会でイニシアティブがとれるような基準づくりに期待します。